谷戸の風 ㊺

日本の皇室

山内静夫

大正、昭和、平成、三世代を生きてきた。と言うと、随分長生きのようにきこえるけど大正は一年六ヶ月しかないのだ。大正十四年の生れだから、生れて一年半で年号が変り大正生れとは名ばかりだ。私の人生の殆どは昭和である。平成は三十年だから昭和が六十年ちょっとである。こんなことを書くのも今年新しい年号を迎えるからだ。

昭和から平成に変った時のことは、平成の二字を小脇に抱えた小渕さんばかり印象に残っていて、年号そのものについては特別の記憶はない。然し今回は全く事情が異なるように思う。それは日本の皇室に初めて上皇が生れることだろう。皇室内のことで公務のあり方など知る由もないが、恐れ多きことながら父と子であるということは、お仕事をなさる上で御遠慮のようなこともおありではないかと言葉は悪いが下衆の勘繰りで、新天皇のお気持を思ってみたりするばかり。然し日本の新皇室に国民のひとりとして頼もしさを感じるばかりであった。

現天皇の御在任中の国民に対するおやさしいお心づかい、同時に思う、皇后へのおいたわりのお気持ちなど、両陛下のお心はこの間の国民の皇室への信頼をどれ程深めて頂けたか、この事ほど日本の国の国力を国の内外に示されたことはない。そのことを国民のすべてにお示し頂けた。有難いと申し上げるか、こんなにうれしいことはなかった。どんな政治より日本は、この国体があってこそと、何度でも心にきざみつけずにいられないと、今私の気持はすっきりと晴れわたっているのである。

木版画　藤本宿

文学つれづれ ⑯⑨

翁と乙女（十一）

赤羽根龍夫

美しく着飾った早乙女が五、六十人ほど田植えする傍らに、破れ傘をさしたへんてこりんな格好をした田主と呼ばれる翁と、むらな化粧をした「あやしの女」が並んで立っているという『栄花物語』の描写は、祖先神としての翁の傍らにほうふつと現れるのは、うら若い乙女であるという私の仮説のよく当てはまる情景である。

しかしそれではなぜ神としての翁や、巫女としての乙女がいかにも品のない怪しい風体としているのであろうか。そのことの意味を問う前に、日本美の頂点に位置している能楽で最も神聖視されている「翁」の源流を尋ねなければならない。

能の中でも「翁」は特別なものとされ、この曲を演ずる能役者は家族とは別のかまどで煮炊きした食べ物をとり（別火）、長い間、禁忌生活（潔斎）を送らなければならない。いよいよ「翁」が演ぜられる時は、はじめに翁飾りということがあり、鏡の間に翁の面を神として安置し、餅や神酒を供えて舞台に出る全員がこの神酒を頂くのである。翁飾りがすむと揚幕の下で切火が行われ舞台が清められる。そして面持を先頭に翁役のシテ、千歳（せんざい）役のツレ、三番叟（さんばそう）、囃子（はやし）方、地謡の順で舞台に登場する「翁渡り」が行われるのである。

白式尉（猿楽の翁）＝井伊家秘蔵能面能装束展（1984年）図録より

一体なぜ「翁」をこうまで神聖視するのであろうか。能の翁とは一体誰なのであろうか。

『申楽談義』で翁の作法について簡単にふれた後、世阿弥は、「三番申楽、おかしきことはすまじき（してはいけない）ことなり、近年人を笑わする、あるまじきことなり」という。「翁」には白色の面をつける主役（シテ）の翁と翁もどきの、黒色をつけ狂言方が演ずる三番叟が含まれている。世阿弥はこの三番叟を滑稽に演じてはならない。近年、滑稽に演じて人を笑わせる傾向があるが、もってのほかであると言うのである。それ以来現代にいたるまで翁はずっと厳粛に演じられてきた。

「『翁』と喜劇精神」で野上豊一郎は、この翁の神聖・謹厳に対して疑問を投げかけた。もしそのように厳粛なものであるならば、翁の面はなぜあんなに屈託のない平和な微笑をたたえているのであろう。また、あのように愉快な、のんきな、わだかまりのない、むしろでたらめな民謡を口ずさんでいるのだろう。そして結局、「翁」はもともとは神聖なものではなく、翁は長寿を祝福する地主神を取り出した野上豊一郎の指摘は鋭かったと言わなければならない。しかし彼は翁を単なる農夫とすることで翁の厳粛さと同時に神聖さも取り除いてしまったのである。

しかし今まで見てきたように、「翁」はやはり神事として演じられたのであり、神聖であると同時に滑稽でもある。世阿弥が「をかしにはすまじきなり」と言った時、彼は滑稽・物真似を表芸とした猿楽のコンプレックスを否定しようとした。彼の築き上げた幽玄の世界は冷え寂びた氷のような厳粛さのなかに花を見ようという世界であり、滑稽なものなど一切否定しているのである。

（神奈川歯科大名誉教授）

湘南七福神にちなんだ「福の市」

お寺と地元店が初コラボ

葉山町長柄の長運寺の新年の「福の市」が1月5と6の両日開かれ多くの人出があった＝写真。

初めての試みで、逗子と葉山の「湘南七福神」の御開帳期間に合わせ、地元の19店舗が境内に出店。参鶏湯（サムゲタン）やカレー、甘酒、焼芋などの温かい食べ物や手作り小物の販売、砂絵や花のワークショップなどを設け、参拝客を賑やかに迎えた。

一昨年、同寺の第17世に就任した遠藤陽仁住職（38）は、檀家以外の人にも寺に足を運んでもらえるきっかけを作りたいと近隣で鹿児島の特産品を販売する「島の八百屋さん」に協力を依頼。同店の堤崎良子（りょうこ）さん（35）が、町内で出店実績を持つ仲間たちに呼びかけ開催につなげた。

毎年の参拝者に加え、福の市に初めて訪れたという人も多かった。予想を上回る来場者に堤崎さんは「皆さんの温かい気持ちが集まる催しになった。湘南七福神めぐりの参拝者の増加にも寄与できたのでは」と手応えを実感。

地域との新しい関わり方を模索していた遠藤住職も「これまでで一番人が集まったのではないかと思う。今後も人や物をつなぐ場として続けていきたい」と人々との触れあいを喜んでいた。

湘南七福神は1973年から始まった。すべてが真言宗の寺であることも特徴で、葉山町では同寺の布袋尊、玉蔵院（恵比寿）と仙光院（毘沙門天）、逗子市では延命寺（弁財天）、東昌寺（福禄寿）、宗泰寺（大黒天）、光照寺（寿老人）の7寺が結ばれている。（K）

NHK学園が主催する「鎌倉市短歌大会」が5月16日、「鎌倉市俳句大会」が5月17日に鎌倉芸術館小ホールで開かれる。詠題はともに「山」。未発表の自作に限ります。

歌人の大下一真さん、尾崎左永子さん、永田和宏さん、東直子さんが選にあたる。

俳句の選者は、星野椿さん、宇多喜代子さん、星野高士さん、高柳克弘さん、堀本裕樹さん。

入場無料、要入場券。

3月1日消印有効で作品募集。投稿用紙と投稿料（現金書留、郵便払込など）をNHK学園大会事務局へ。投稿料は自由題1首（俳句は2句）2千円、自由題1首（俳句は2句）と題詠1首（1句）2800円。入選作品集代込。

応募用紙のご請求や問い合わせは同大会事務局☎042・572・3151（平日9時半～12時、13時～17時半）

NHK学園生涯学習フェスティバル

鎌倉市短歌大会
鎌倉市俳句大会　投稿募集

鎌倉朝日歌壇

香山　静子　選

鳩の群れをカモメ四、五羽が切り裂いて源氏池の上蟲然となる　大船　小笹岐美子

事象の捉え方が的確で表現も優れている。

上空を占めて咲きたる皇帝ダリアを伐れば白雲動くが見ゆる　逗子市　湊　美根子

情景が生き生きと活写されている。

風止みて日差し戻れる丘の上につつじ咲きおり赤く小さく　梶原　中澤　二郎

静かな景ながら結句で一気に印象を深めている。

駅伝のテレビを消せば新年の静寂はあり窓に鳥来る　片瀬　中村　喬

青首の大根洗う井戸水にひび割れ痛し木枯しは吹く　葉山町　近藤　純

句読点うちつつ生き来しわが一世うかぶ想ひ出うたに遺さむ　辻堂　柳　蒼

寒風に羽ふくらませキジバトは紅き実求め今日はいづくへ　葉山町　近藤美知子

秋の日に種を蒔きたる大根は青き首出し主を待てり　笛田　入野　裕江

古書店のワゴンにありしを購ひぬ佐藤佐太郎『短歌をつくる』　今泉台　下田　和夫

片足立ち百秒を目標に電子レンジの秒読みに合わす　扇ガ谷　鈴木　久子

われの背に手を置きくるるをさりげなく受けて踏み出すエスカレーター　藤沢市　青木寿美子

若芽吹く若宮大路の桜木を実朝あらはは何と語らむ　手広　高口　道宏

鎌倉朝日俳壇

星野　高士　選

〈天〉海峡を越すに苦もなき冬の雲　岡本　鳴海　紀政

冬の雲の鋭どさと早さが伝わり動きがある。

〈地〉水鳥の番を逸れし一羽かな　片瀬　國安　佳子

仲間に入れない一羽に目を向けた優しさがある。

〈人〉雲が陽を隠さぬうちの日向ぼっこ　腰越　大川昭子

日向ぼっこは陰ってくると寒い。よく17字にまとめた。

平成や戦なき世の除夜の鐘　本鵠沼　森田　順子

平和な平成の時代の除夜の鐘の響きが伝わってくる。

冬満月厚きカーテン引かず眺く　植木　風見　玲子

カーテンの厚さで冬満月への心持ちを上手く表した。

鎌倉の初春の空真青なる　手広　高口　道宏

鎌倉の初春の空には希望も未来もある。

新春や未来を売りぬ六区街　城廻　小美野京子

改元に託す蒼れや梅早し　腰越　小河　哲美

赤出しの天下一品鏡汁　笹目町　出蔵かおる

焼芋の笛の音追いて二丁ほど　材木座　羽賀　一男

帰京の娘バッグに一枝寒椿　今泉　小林刀羊子

白散りて紅の佗助いま盛り　逗子市　佐藤　信子

もず啼いて朝の青空一人占め　城廻　塩田　文子

背のびしておみくじ結ぶ初詣　笛田　上田　満喜

独り居にをりをり匂ひ室の花　逗子市　塩谷あい子

坂の上の弟の墓竜の玉　鵠沼桜が岡　一色千穂子

初日待つ江に百千のさざれ波　金沢区　岩澤　正春

柚子を足ししまい湯溢れさせにけり　腰越　松原　薫

ひび割れに味噌ぬる母の肩寒し　葉山町　近藤　純

寒の入両手に包む湯呑みかな　大船　添田　洋子

鎌倉朝日発刊協力グループ
朝日新聞サービスアンカー

ASA鎌倉小町
材木座一―一〇―三七―一〇三
☎22―3236

ASA鎌倉中央
長谷一―一―九
☎22―1004

ASA鎌倉深沢
常盤二四七―二
☎31―1444

ASA北鎌倉
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA鎌倉南部
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA大船西部
玉縄一―一四―一
☎46―6068

ASA大船南部
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA大船中央
大船二―二三―一六松栄ビル3F
☎38―7322

ASA腰越
藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三
☎0466―27―8716

ASA藤沢南部
藤沢市鵠沼藤が谷二―一―二三
☎0466―27―8716

ASA藤沢東部
藤沢市亦勧寺三―二三―一一
☎0466―22―7409

ASA鵠沼東部
藤沢市鵠沼海岸二―一―一一
☎0466―34―6924

ASA鵠沼西部
藤沢市鵠沼海岸二―一―一一
☎0466―34―6924

ASA逗子
逗子市久木一―一―一
☎046―871―2368

ASA東逗子
逗子市沼間一―四―四
☎046―871―6845

ASA葉山
三浦郡葉山町堀内一八〇八
☎046―875―0515

ASA金沢八景
横浜市金沢区六浦一―二―一三
☎045―782―2859

ASA大船北部
横浜市栄区笠間四―一―九
☎045―891―0986